2013年度（平成25年度）

社会福祉法人アンビシャス事業報告

法人理念

『どんなに障がいが重くても、自己選択・自己決定・自己責任において、自分が望む地域で暮らせる社会を目指す』

基本方針

１．私たちは、障がいを持つ方の「地域移行」「地域生活」「日中活動」を支援します。

２．私たちは、このような社会を実現するための運動をしていきます。

３．アンビシャスは、障がい者自らが地域生活における力をつけるため、学び･考え・実践し、社会の中での役割を持ち一歩踏み出す場とします。

アンビシャスを利用する障がい者の皆さんへ

１．アンビシャスは、地域社会で自立していくための人生の通過的な場です。生きていくための自信と力が付き、次の目標が決まった時には、アンビシャスに限らず色々な所でその“力”を発揮していきましょう。

２．アンビシャスでは、手足が不自由だからと言って、障がい者ではありません。皆さんが得てきた経験や知識、持っている力をアンビシャス、そしてここで働くスタッフや仲間に分け与えて下さい。

３．街をぶらつき歩くことも障がい者にとって大切な仕事です。街に行くと必ず壁にあたります。壁を取り払うのは障がい者だからこそ出来る仕事であり、社会を変える運動です。

４．障がいの有無に関係なく、お互いに助け合って活動をし、学びあい、社会に発信していくことを大切にしていきましょう。

５．このような取り組みを率先して行っていきましょう。

目　　次

生活介護事業所「自由工房」.....P４

生活介護事業所「デイサービスセンターいるか」.....P８

生活介護事業所「フルハウス」.....P11

障がい者福祉ホーム「ステップ６・２」.....P14

居宅介護事業所「アンビシャスケアセンター」.....P18

相談支援事業所「相談室すきっぷ」.....P21

生活介護事業所「自由工房」

事業方針・内容

１、個別支援と関係機関との連携
２、生活力の向上
３、生産活動・職業体験
４、創作活動
５、その他の活動

重点項目

① 『メンバー内の全体リーダーの構築』
② 『土曜日営業への取り組み』
③ 『生産活動・工賃配分の改良』

報告事項

〇生活介護としてスタート３年目となりメンバーへ定着もしてきている。
年間の動向としては新規利用者３名、利用解除者２名であった。
２０１４年度からの自宅への送迎サービススタートに伴い、特別支援学校（高等部）などに今後の新規利用者獲得へ向けた PR 活動を行った。

〇個別支援計画については、スタッフのスキルアップが必要不可欠であり、勉強会などの取り組みを行っていきたい。
個別支援計画の重要性については、スタッフそれぞれが認識できた１年となった。

〇今年度は４年振りに温泉旅行を実施、介助者との温泉入浴体験は現材のスタッフ、利用者ともに初めての中、お互いに確認を取り工夫しながらの入浴となり良い経験となった。
また、メンバーからの提案により２年に１度の温泉旅行にして、毎月の積立を行いみんなで温泉旅行に参加したいなどの声が上がり来年度から取り組む事とした。

〇今年度は地域から４名のボランティアの方に来ていただく事が出来た。ながつきフェスティバルや外出企画などにも参加している。来年度は学生ボランティアへ呼びかけ土曜日活動への参加に声を掛けて行きたい。

〇機関紙『いちご通信』の編集作業、インタビューの同行や原稿の集約、会議参加など継続的に行い、今後の「自由工房だより」を少しずつではあるがメンバー主体の原稿作りにシフトしてメンバー（当事者）の声を増やしていきたい。

〇新たな利用対象として、より重度の障がいのある方を受け入れ、一人ひとりが本来持っている可能性を一緒に見つけ、様々な体験活動を通じて、楽しみながら興味を持ち、その中でメンバーが本来持っている力を育むため、次年度に向けて活動等の見直しの検討を行った。

重点項目

１、『メンバー内の全体リーダーの育成』

・リーダーを中心とした活動が形となってきており、定期開催している全体ミーティングでは、メンバー中心に企画や活動について話し合いメンバー同士のコミュニケーションが増え、目的意識や達成に対する意欲が向上した１年だった。会話の中から生活の工夫についての疑問や関心をくみ取り次年度は自立生活プログラムの実施に繋げたい。

２、『土曜日営業への取り組み』

・月に１回行い、レクレーション中心の活動をしている。利用率は安定しており、楽しむ事が出来ている。１月に開催した、いるかとの合同食事会は大変好評であり新しい活動の形を発見できる良い機会となった。

・いるか休業日により活動における車両の使用が可能となり色々な取り組みが出来るようになった。また、土曜日において自宅送迎を実施する事により、ご家族と顔を合わせ情報交換をする場となっている。

３、『生産活動・工賃配分の改良』

・写真販売・ステンシル作品作成・施設内バザーの工賃の配分方法については、４月から工賃が毎月入る形に改善した。

・毎月、工賃を配分する事により持続力が向上、互いに協力し合い、技術やカラーなども独創性が増え、バリエーション豊かな仕上がりが増えている。また作成しながらメンバー同士のコミュニケーションの場ともなり日々楽しみながら取り組めた。

・単発での受注作業（苗を育てる）では、ながつきでの野菜販売の受注やステンシル作品の販売委託など新たな広がりとなった。

活動内容報告

・外出企画７回実施（花見・手稲区散策・防災センター・新千歳空港・ビアガーデン・旅行）
・ミニピアカンと題して澤口理事長と利用者が参加し４回実施
・おしゃれ（ネイル）講座を２回実施、メイクアップ講座１回の実施
・調理実習４回実施
・自立生活プログラム３回実施
・高等養護学校、福祉ホーム交流バーベキュー・鍋パーティー・合同

次年度に向けた取り組むべき課題

・個別支援計画作成に関わるスタッフのスキルアップ
・自立生活プログラムの取り組み
・利用率向上

事業の実施状況　（2014/3/31 現在）

１－１　　障害程度区分・手帳等級（2014/3/31 付）　　単位：人

障害程度区分	区分６	区分５	区分４	区分３	区分２	区分１	非該当	合計
人数	6	5	3	4	1			19 名

手帳等級	１級	２級	３級	合計
人数	10	7	2	19 名

１－２　　年令別メンバー数　　単位：人

年令／性別	18～24	25～34	35～44	45～54	合計
男性(名)	1	5	2	1	9
女性(名)	3	6	1		１０
合計(名)	4	１１	3	1	１９

1-3　　月別利用状況　　単位：人

項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
初日在籍数	18	19	20	20	20	19	19	19	19	20	19	19	231	19.2
開所日数	22	22	21	23	23	22	24	21	20	20	20	21	259	21.5
延利用者数	307	298	311	328	270	274	317	275	257	274	264	280	3455	287
1日平均利用数	13.9	13.5	14.8	14.2	13.5	12.4	13.7	13.2	12.9	13.7	13.2	13.3	162.3	13.5

活動の様子

５月　小樽ワイン工場見学

６月　防災センター体験！

７月　新千歳空港外出

９月　１泊２日温泉旅行

１０月　街頭共同募金へ参加

暖かい昼、たまには野球で気分転換！

指定生活介護事業所　／　デイサービスセンターいるか

事業方針

①地域ニーズに応え安定した事業運営の実施
②自分らしく、楽しく、笑顔があふれる日中活動の提供
③身体状況を把握した個別の介助

重点項目

①土曜日営業について、利用者ニーズを把握し営業形態を検討
②利用者とスタッフが共有する時間を楽しむ

報告内容（今年度の成果・反省）

■事業総括

〇年度当初は登録者数 56 名でスタートし、年間での動向は新規利用者 5 名、利用解除者 3 名であった。新規利用者のニーズとしては、病院を退院し地域生活をする際の日中系サービスの活用、他者との交流を求める方や入浴を希望される方々を受入れてきた。利用解除者については、家庭の事情や死亡等によるものである。

〇年間での延べ利用者数については 3,311 名（前年比２３２名増）、うちフリー登録利用については 376 名、月平均 31.3 名であった。しかし、述べ利用者数は増えたが年度目標値とした１日平均利用者数 13.5 名を達成する事は出来なく 13.3 名であった。

〇サービスの質を低下させず利用者ニーズを踏まえた上で、固定利用曜日の回数を増やす事や積極的にフリー登録利用を活用していただいたが、体調不良等による欠席者（欠席時対応加算算定者数）が月平均 17.3 名、この内年度末にかけては 1 月 18 名、2 月 20 名、3 月 31 名と体調不良等による休みが増える傾向となり、これに対応する事が出来なかった事が年度目標値を下回る要因として挙げられる。

〇利用者の身体状況の把握として、スタッフミーティングでの情報共有や関係機関との相互連絡により対応する事ができていたが、年度末にかけてヒヤリはっと、事故報告が多発してしまった。安全、安心、安定に対する対策の方法を改めて共有を図り事故発生の軽減に努めていきたい。

■重点項目

〇土曜日営業について、ニーズを把握する為アンケート調査を実施。全体の９６％から回答を得て、その内土曜日営業を利用すると答えた方が約３３０％であった。また、希望する営業形態については通常営業を望む方が多数を占めた。これを踏まえ９月より、月１回の土曜日営業を開始し、土曜日における平均利用者数は 11.2 名であった。この通常営業の他に１度、併設事業所の自由工房と合同企画を実施したが平均利用を上回る利用人数となった。次年度はこの状況を踏まえた営業方法の工夫と検討が必要である。その他、土曜日営業を利用しないと回答を得た方は体調を考慮しての休息、スケジュール上利用をする事を考えていないという結果であった。

〇日中活動や企画行事の取り組みでは、季節行事に合わせた七夕装飾作りを行ない、装飾完成に合わせて茶話会を実施し、利用者間で創作過程を楽しく振り返る事が出来た。次に今年度は初めて実施する企画が２点あった。１つ目は「札幌もいわ観光」である。改装された建物や世界初のミニケーブルカーに乗車し、６月に新緑の札幌市街の風景を眺める事が出来た。２つ目は「ボーリング」である。普段の日中活動では簡易レク用品を利用し事業所内で実施していたが、ボーリング場で実施した事がなかった。ボーリング場ならではの臨場感あふれるピンが倒れる音やボーリング玉を抱え重みを感じながら投球した。また、自由工房との合同企画として食事交流会「飲んで、歌って、楽しんじゃおう！」を実施。いるか２５名、自由工房１５名が企画名の通り飲食を共にし楽しいひと時を過ごすことができ、非常に好評を得た企画となった。今後も利用者ニーズと過去の実績を参考にし、日中活動や企画行事を盛りあげていきたい。

次年度に向けた取り組むべき課題

①新規登録者、既存登録者の受入れ調整の実施
②企画については、内容に合わせて平日の他にも土曜日・祝日営業により実施する
③ヒヤリハット・事故防止に向けたスタッフ研修の充実

■年齢別利用者数

	15～24	25～34	35～44	45～54	55～64	65歳以上	合計	平均年齢
男性（名）	0	1	2	4	9	12	28	60
女性（名）	0	3	8	5	8	6	30	52.7
合計（名）	0	4	10	9	17	18	58	56.2

■障がい程度区分

	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
男性（名）	5	6	6	3	8	28
女性（名）	5	12	2	5	6	30
合計（名）	10	18	8	8	14	58

※2013年度末（2014年3月31日現在）の数値で算出しています。

■年間企画活動報告

4月	10月
・陶芸／8回　・絵手紙2回	・陶芸／8回　・絵手紙／1回 ・茶話会／2回 ・曜日別企画（水曜日）三井アウトレットパーク ・1泊2日温泉旅行／湯元第二名水亭
5月	11月
・陶芸／8回 ・茶話会／2回	・陶芸／7回　・絵手紙／2回 ・調理＆茶話会／3回
6月	12月
・陶芸／6回 ・札幌もいわ山観光／5回	・陶芸／7回　・絵手紙／2回 ・クリスマス忘年会
7月	1月
・陶芸／8回　・絵手紙／2回 ・バーベキュー／5回	・陶芸／4回　・絵手紙／2回 ・新春茶話会／5回 ・鍋パーティー／3回 ・いるか、自由工房合同企画／1回
8月	2月
・陶芸／8回　・絵手紙／2回 ・調理＆茶話会／5回 ・曜日別企画（月曜日）円山動物園 ・曜日別企画（木曜日）ボーリング	・陶芸／8回　・絵手紙／2回 ・鍋パーティー／2回
9月	3月
・陶芸／7回 ・曜日別企画（火曜日）新千歳空港 ・曜日別企画（金曜日）食事会 ・ながつきフェスティバル	・陶芸／9回　・絵手紙／2回 ・映画買物企画（札幌駅）／3回

生活介護事業所　フルハウス

事業方針

①地域で暮らす重度障がいを持つ方の日中活動の場を保障し、給食・送迎・レクリェーション・健康維持活動の基本サービスを中心に、日々の生活を楽しく豊かにするために個性を活かした様々なプログラムや社会参加に向けた取り組みを行います。

②札幌いちご会・アンビシャスの『どんなに障がいが重くても地域で暮らしていいけるように』という理念の実現に向けてもっとも重度と言われる人達が住み慣れた地域で暮らす事が可能になるよう日中活動先の役割を担っていきます。

重点項目

①活動内容の充実

②利用率の安定と誰もが安心できる体制づくり

目標数値：一日利用平均４名

報告内容（今年度の成果・反省）

・２０１３年度はスタッフ体制（常勤・非常勤ともに）が一新され、上半期はスタッフ全員の意識の統一や安定した環境づくりを目標とし、下半期は活動内容の向上に取り組んだ。

・病気休暇等で職員体制の不安定という問題が発生したが、非常勤職員や他事業のスタッフの協力もあり日々の活動や企画外出については上記の事業方針①②から逸れることなく充実した内容を実施できた。

・利用率に関しては目標数値を超え、最終的に一日利用平均４．３名という数字を残すことが出来た。休まれた方の理由のほとんどは体調不良または入院であった。

・利用中における大きなてんかん発作や、体調の急変に対して常に不安（リスク）を抱え事業活動を行ってきた面があるため、今後医療機関を初めとした他機関との連携、連動した中での関わりが必要である。

・フルハウス移転のための基金に二度応募したが、良い結果にならず移転時期を延期せざるを得なくなってしまい、利用者さんやご家族には混乱を与えてしまったが、より安心して過ごせる環境を提供できるようしっかりと議論した上で進めていきたい。

次年度に向けた取り組むべき課題

・『“地域”の中で個性を尊重し利用される方には充実を、家族には安心を与えること』を目的とし、法人の『理念・方針』を事業所、携わる職員とで共有することにより、利用者さんやご家族が安心して暮らせる環境を提供する。

・家族からのアセスメント及びモニタリングの機会を調整し、一人一人の個別支援計画に沿ったサービスを提供する。

・支援に携わる職員の不安を少しでも取り除けるようスキル向上のための研修や勉強会を行う。

・安定した職員体制の整備を行い、障がいの重い方々の親亡き後のことなど、将来の生活について考え、フルハウスのあり方について職員一同意識を統一していく。

2013 年度の活動の様子

外出（もいわ山ロープウェイ）

創作活動

調理（クラッシュゼリー）

音楽活動

スヌーズレン

外出（日帰り定山渓温泉）

外出（紅葉狩り）

外出（モエレビーチ）

『2013年度』月別利用状況

項　目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
新規登録者	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0		
利用解除者	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
登録者数	11	11	11	11	11	11	11	11	12	12	12	12		
月利用実人数	11	11	11	11	11	11	11	11	12	12	12	12		
開設日数	21	20	20	22	19	19	22	20	19	19	19	20	**240**	**20**
利用者延数	95	78	86	97	70	83	99	82	83	84	87	81	**1025**	**85**
一日利用平均	4.5	3.9	4.3	4.4	3.7	4.4	4.5	4.1	4.4	4.4	4.6	4.1	**51**	**4.3**
欠席加算対象者	3	13	4	3	9	6	7	7	3	9	3	10	**77**	
食事加算対象者	69	59	56	71	46	59	63	61	58	51	61	67	**721**	
送迎加算対象者	184	154	168	191	136	154	181	161	161	167	172	159	**1988**	
男性延べ	53	43	47	54	39	44	50	44	48	43	39	43	**547**	
女性延べ	42	35	38	43	31	39	49	38	35	41	48	38	**477**	

身体障害者福祉ホーム「ステップ６・２」

事業方針

主体性を持った地域生活の実現とチャレンジ！

重点項目

1. 法人併設の事業を利用されている方への入居支援
2. 個々の障がいや異なる利用目的を持つ方への入居支援
3. 潜在化している対象者の発掘（地域移行希望者）

報告内容

「主体性を持った地域生活の実現とチャレンジ！」

・年度当初に全入居者を対象に個別面談を行い、現在の生活状況に関する事から今後の生活設計について入居者自身の意向確認~~作業~~を行った。長く福祉ホームに入居されている方からは、継続的にホームを利用したいとの希望も多く聞かれたが、入居前から目標として掲げていた地域生活の実現に向けて、これからどのような事を考え、どのような準備が必要となるのか双方で再確認する機会とした。

・新規入居者の２名は、以前から繰り返し体験室を利用し入居に向けて準備を経てきた成果である。また、いずれも実家からの入居であった事もあり、家族への理解と協力を得ながら自立生活への第一歩を踏み出したと言える。

１．『法人併設の事業を利用されている方への入居支援』

・入居者の必要な情報交換と共有は、各事業担当者との連携を密に行ってきた。しかし、より細かく掘り下げた支援とケアの在り方については継続的に行う事が重要である。特にホームを退居する際の準備については、住環境・通所先も含めた日中の過ごし方・ケア体制等、事前の有効な準備が退居後の生活の安心感と安定した基盤準備に繋がる事を再認識した。

２．『個々の障がいや異なる利用目的を持つ方への入居支援』

・福祉ホームは地域移行に向けた通過的な場所としての機能ではあるが、入居者自身が主体性を持った日頃のヘルパー調整、金銭・健康管理等自己管理が難しい事により、入居を断念する方も多くいる。これら多様化するニーズに対し入居年限も含め柔軟に対応する住まいの場としての提供と周知を図った。その結果として、期間限定の入居や家族の支援と協力を得ながら生活を組み立てる方は３名おり、その他法人併設利用者１名、外部２名が待機者となっている。

３．『潜在化している対象者の発掘（地域移行希望者）』

・２０１４年１月に生活介護事業所の移転と２階の改修工事が予定されていた事もあり、改修場所に入居している方の部屋の移動（引越し作業）を理解と協力を経て行った。また、現入居者の退居動向を踏まえて受け入れ調整していく事も必要であった為、地域移行希望者の発掘に関して取り組むことはなかった。

報告事項

・２０１０年８月、雑居ビルで起きた保険金目的による放火の容疑で逮捕された方の裁判員裁判が３月に行われ、入居中の生活状況と様子についての証人尋問として関わっていたが懲役７年の判決が下された（２０１２年１２月に病院からホームに入居、２０１３年８月に逮捕）

・今回の公判で過去の犯歴を初めて知らされる機会ともなった。また一方では北海道地域生活定着支援センターからの問い合わせも近年増えている事から、福祉ホームの個室という住環境、夜間宿直スタッフの体制、入居者の安全を守る等の視点を踏まえて、受け入れの可否については個別性を持ちつつも、慎重に判断していかなくてはいけない。

次年度に向けた取り組むべき課題

①入居待ちされている方の入居前準備と促進
②ホームから地域移行への新しい道筋の開拓と実績の構築
③多種多様な福祉ホームの利用方法の模索
④新規入居者の獲得

２０１３年度利用実績　　２０１４年3月３１日現在

１．月別入退居状況

	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月	１月	２月	３月
初日入居者数	１２	１２	１３	１３	１３	１２	１２	１２	１２	１２	１２	１２
入居者数	1		1									
退居者数					1							1

【退居者：２名】

退居日	性別	年齢	障がい名	退居後の動向
8/27	男性	５５	熱傷による右下肢の大腿の１/２以上欠くもの	逮捕
3/31	男性	３１	脳性まひ	アパート（西区）

【入居者：２名】

入居日	性別	年齢	障がい名	入居前の生活
4/21	女性	２６	頭蓋内出血による四肢体幹機能障害	実家（両親と同居）
6/15	女性	３３	脳幹出血による両上下肢機能の著しい障がい	実家（両親と同居）

２．開設時からの実績（２０００年４月～）

・利用者総数：６７名（内、２０１４年３月３１日現在の入居者含む）

【退居後の移行先】

アパート	市営住宅	共同住宅	家族と同居	病院	寮	入所施設	死亡 その他	合　計
３２	6	3	9	2	1	1	2	５６

３．利用年数別入居者数

	１年未満	１～２年	２～３年	３～４年	４～５年	５年～	合　計
男　性			1	1	1	3	6
女　性	2		1	1	1		5
合　計	2		2	2	2	3	１１

４．年齢別入居者数

年令 性別	15～24	25～34	35～44	45～54	55～64	65歳以上	合　計	平均年令
男　性				2	2	2	6	58.5歳
女　性		2	1	1	1		5	35.6歳
合　計		2	1	3	3	2	１１	51.3歳

５．障がい種別

種別 等級	脳性マヒ	脳血管障がい	ファール症候群	頚椎損傷	両混合性難聴視覚障がい	全身性エリテマトーデス	多発性硬化症	頭蓋内出血による四肢体幹機能障がい
１級	1	3	1	1	1	1	1	1
２級	1							

６．自立生活体験室利用状況

	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10 月	11 月	12 月	１月	２月	３月
利用者数	2	1	3	2	3	3	3	2	2	3	2	1
うち自立体験	1		2		1	1	2	1	1	2	1	
利用日数	9	5	１０	5	8	１７	１２	6	7	１１	6	3

居宅介護事業所　アンビシャスケアセンター

事業方針
① 利用者の新規獲得
② 重度の障がいを持つ方への支援体制の強化
③ 質の高いケアの提供と安定した派遣
④ 居宅介護特定事業所加算の取得
重点項目
① 利用者の新規獲得（新規実績、年間２，５００時間獲得）
② ヘルパーへの研修、勉強会の強化
③ 居宅介護特定事業所加算の取得
④

報告内容
① 利用者の新規獲得
- ３月末現在の利用者数は、５１名。年間の利用者動向は、新規利用者１０名、利用解除８名（施設入所１名、実施地域外への転居３名、他事業所へ移行１名、死去２名、福祉ホーム退去１名）であった。
- 派遣時間数の月平均は１，９５０時間、年間派遣時間数は２３，４１８．25時間と昨年度実績より２，６５８．５時間上回り、重点項目であった年間２，５００時間獲得の目標を達成することができた。年間を通じて長期入院する利用者も数名いたが、福祉ホーム入居と合わせての新規契約と重度訪問介護利用者の時間数拡大に伴い利用時間数の増加に繋がった。
- 新規利用の問い合わせが数件あったがヘルパーの人員確保に苦慮し、短時間での居宅介護や月数回の移動支援の受け入れ対応が中心となった。その他、医療ケアが必要な方からの問い合わせもあったが、医療ケアのできるヘルパーが少ないこともあり受け入れが出来なかった。来年度は医療ケアが必要な現利用者も含めて、計画的に必須研修の受講を行い医療ケア体制を整備していかなければならない。

② 重度の障がいを持つ方への支援体制の強化
- 昨年６月より、夜勤専門の非常勤ヘルパーを３名雇用（男性１名、女性２名）することができた。日中活動のない休日の派遣対応については、ヘルパーの調整に苦慮することもあり、来年度も引き続き休日や夜間体制の強化、ヘルパーの人材確保と育成を図っていかなければいけない。
- その他、併設の３事業との情報共有や連携を密にし、支援体制の強化を図っていく事が課題である。

③ 質の高いケアの提供と安定した派遣

・ヘルパーの退職に伴いサービス提供責任者の常勤による派遣稼働が多くなった。その為、事務所に担当スタッフが不在となり、スタッフやヘルパー間の連絡と情報共有が図れない事が多くあった。ヘルパーの退職に伴い派遣体制が不安定となっても、必要な情報の共有や連携を密に行える事業所内の体制について、工夫と対策が必要である。

・ヘルパーの人材確保については、アンビシャスホームページや求人誌での募集、ヘルパー養成校での企業合同説明会に参加し求人ＰＲを行ったが、雇用には繋がらない状況である。雇用に繋げること、離職防止となるよう雇用条件の見直し、処遇改善を行っていきたい。

・ヘルパー研修は 5 回実施し、内容は実技研修・普通救命救急講習・出前講座による身体障がい者の現状認識や施策等について・個別面談・利用者合同ミーティングを行った。

・９月に実施した利用者アンケートを基に利用者合同ミーティングを行った。送迎対応を行った事もあり、福祉ホーム入居者だけではなく地域の利用者も多く参加され、普段関わりの少ない利用者とヘルパーとの交流を図れる機会となった。ヘルパー、利用者共に今回の合同ミーティングは好評であった為、来年度の事業計画にも組み込んでいきたい。

④ 居宅介護特定事業所加算の取得

９月より居宅介護特定事業所加算の体制が整い取得することができたことは、経営上において大きな成果である。加算条件でもある会議、研修開催における整備を計画的に行っていかなければいけないが、会議や研修へのヘルパーの参加率が低調であった為、開催日程時間や内容の再検討が必要である。

⑤ その他

・2011 年４月から２０１３年１０月の期間において、深夜帯派遣の非常勤ヘルパー4名への給与未払いがあったことが判明した。当該ヘルパーへの謝罪と未払い金の支払いはすでに完了したが、今後このような問題を起こさないよう、制度の十分な理解と雇用契約内容の十分な説明責任を行い、利用者やヘルパーにとってより良い派遣と制度活用となる環境整備に努めていきたい。

次年度に向けた取り組むべき課題

① 居宅介護計画の充実

② 質の高いケアと安定した派遣のための体制づくり

③ 重度の障がいを持つ方への支援体制の強化

サービス別実績時間数

	利用者数	重度訪問介護	身体介護	家事援助	通院介助（身体有）	通院介助（身体無）	同行援護（身体有）	同行援護（身体無）	移動支援（身体有）	移動支援（身体無）	総時間数
4月	53	1285.5	196.5	211	51	5	4.5	20	41.5	39	1854
5月	53	1340	252.5	238.25	63	2	5	21	68	36	2025.75
6月	55	1290.5	215.5	240.5	43.5	4	3.5	17	54.5	30	1899
7月	55	1301	233	246.25	55.5	2	4	28	38	37	1944.75
8月	56	1350.5	204.5	259.75	38.5	0	5	21	62	22.5	1963.75
9月	56	1366.5	204.5	259.75	38.5	0	4	18	41	30	1962.25
10月	56	1369.5	158.5	273.75	42.5	3	4.5	20	43.5	28	1943.25
11月	54	1,433	189.5	238.5	45.5	3	4	4	46.5	27	1991
12月	54	1497.5	204	263.5	33	5	4.5	1.5	64	32	2105
1月	54	1364.5	228.5	245.5	44	2.5	5	0	75.5	23	1988.5
2月	51	1288.5	160	240.5	32	2.5	4.5	7	40.5	4	1779.5
3月	51	1391	215	254	22	3.5	5.5	0	65	5.5	1961.5
合計		16278	2462	2971.25	509	32.5	54	157.5	640	314	23418.25

2012 年度末の総時間数
20759.75 時間

札幌市障がい者相談支援事業所　相談室すきっぷ

事業方針

① 障がいを持つ方に対し、その種別に関わらずあらゆる相談の身近な窓口として支援を行う。

② 本人支援を基本としつつそこからつながる家族、関係者、地域の方への相談支援も状況に応じ行う。

③ 本人につながるフォーマル、インフォーマルな福祉サービス、行政、医療などあらゆる機関と必要に応じサービス調整会議、ケース会議などを通じて支援内容、役割の確認をし、効率的かつ本人に対する支援が行えるような場を積極的に設定する。

④ 本人の意向、エンパワメントを尊重しつつ、可能な限り地域での自立的な生活を支援する。

重点項目

１．「計画相談支援」や「地域相談支援」への体制整備を図る。

２．地域保健活動推進事業の地域支援員として地区の保健福祉活動に対応していく。

３．自立支援協議会において地域の課題・整理に取り組む。

報告内容（今年度の成果・反省）

２０１３年度は相談員の異動や地域支援員としての動きの中で相談支援事業所の体制を整備しなければならなかった。

相談件数は延べ 3,598 件で増加している（前年度 3,344 件）。障がい種別の割合では身体 37%（前年度３５%）、知的２６%（前年度３８%）、精神２１%（前年度１４%）発達１１%（前年度８%）となっており精神障がいと発達障がいの件数が年々増えている。障がいを重複しているケースや、障がい未診断のケースもあり、障がい種別についても多様化してきている。相談登録の障がい害児の割合については１８%（前年度１４%）となっており、放課後デイサービスや通学支援のための福祉サービスや子育て支援に関する相談も増加傾向となっている。

１．「計画相談支援」や「地域相談支援」への体制整備を図る

「計画相談支援」については、上半期は計画相談の登録は９名となっていたが、年度末現在で１４名、障害児相談は５名となった。西区の入所施設からも計画作成依頼が増えてきている状況で今後、障害支援区分への更新時での作成依頼期も見込まれるため体制作りが急務である。

２．地域保健活動推進事業の地域支援員として地区の保健福祉活動に対応していく

孤立死問題が発端となり札幌市のモデル事業として取り組みが始まった西区西町地区の地域支援員の活動は、上半期は活発な動きができていなかったが、下半期より町内会長や民生委員などが集まる諸行事への参加や保健師と健康サロンへの出張相談をしていく中で顔の見える関係づくりから個別ケースにつながっていくような情報交換が始まってきている。

３．自立支援協議会において地域の課題・整理に取り組む

本人や家族以外にも保健師や医療機関、福祉サービス事業者などの関係機関からの相談も増えてきており、問題解決に向けての連携や情報共有など相談支援体制の充実に向けて取り組んでいく必要がある。相談室が事務局を担っている西区地域部会でも地域の課題抽出と整理に向けて、「幼児期・児童期に利用できる地域資源」をテーマにした勉強会や「医療・介護・福祉との連携」で講演会と交流会を実施した。西区精神保健福祉連絡会でも「発達障がい」や「依存症」などをテーマとして、多職種との連携について研修会を行った。

次年度に向けた取り組むべき課題

事例検討などによる相談員のスキルアップに向けた取り組み

基幹相談支援センターワン・オールや他の相談室とともに勉強会を実施し、多種多様な一般相談に対応していくための相談技術の向上

計画相談の対応に向けての体制整備

サービス等利用計画を作成できる相談支援専門員（研修と実務経験が必要）の確保とエンパワメントを重視したセルフプラン作成への支援

触法障がい者の対応

地域定着に向けた相談に対する相談技術のスキルアップや司法との連携

虐待通報に対する関係機関との連携や役割分担

顔の見える関係づくりから緊急対応ができる関係に向けて情報共有

ピアサポーター配置業務

地域支援員と連携し地域の方との障がいの理解について深めていける機会を作っていきたい。今後のピアサポーター配置業務の在り方については札幌市や基幹相談支援センター、他の相談室のピアサポーターとともに検討を行っていくことになっている。

札幌市障がい者相談支援事業実施状況報告書（H25.4～H26.3月分）

事業所名　相談室すきっぷ

1　登録者の概況

前年度末登録者数	今年度新規登録者数	今年度抹消登録者数	今年度末登録者数	うち計画相談支援等利用者数	うち障害児相談支援利用者数	うち地域相談支援利用者数
218	87	63	242	14	5	0

〔区別内訳〕

中央	北	東	白石	厚別	豊平	清田	南	西	手稲	市外	計
6	6	3	5	0	3	0	2	196	19	2	242

〔障がい別内訳〕

	身体	重心	知的	精神	発達	高次脳機能	難病	その他	計
障がい者	48	4	67	58	20	5	0	3	205
障がい児	8	1	15	0	12	0	0	1	37
計	56	5	82	58	32	5	0	4	242

2　相談支援（個別支援）の概況

〔障がい別内訳〕

身体						重心	知的			精神	発達					高次脳機能	難病	その他	計
肢体	視覚	聴覚	言語	内部	計		自閉	他	計		高機能	学習	ADHD	他	計				
1189	118	21	0	27	1355	36	72	876	948	754	68	16	88	231	403	26	1	75	3598

〔支援方法別内訳〕

訪問	来所相談	同行	電話相談	電子メール	調整・ケア会議	関係機関	その他	計
394	153	313	1004	160	94	1472	8	3598

〔支援内容別内訳〕

支援内容	件数	支援内容	件数
①　福祉サービスの利用に関する支援	1657	⑦　家計、経済に関する支援	165
②　障がいや病状の理解に関する支援	121	⑧　生活技術に関する支援	275
③　健康・医療に関する支援	236	⑨　就労に関する支援	252
④　不安の解消・情緒安定に関する支援	470	⑩　社会参加・余暇活動に関する支援	49
⑤　保育・教育に関する支援	170	⑪　権利擁護に関する支援	52
⑥　家族関係・人間関係に関する支援	151		
		合計	3598

3　相談支援（地域支援）の概況

〔支援内容別内訳〕

地域援助	各種会議・研修への参	計
	94	94